

インタプリテーション全体計画の作成の背景 (国立公園のブランドプロミスとブランディング活動)

ブランドメッセージ

その自然には、物語がある。

提供価値

多様な自然風景と、生活・文化・歴史が凝縮された
物語を知ること、忘れられない唯一無二の感動や体験ができる。

ブランドプロミス (国立公園が来訪者・地域に約束すること)

◎ 感動的な
自然風景



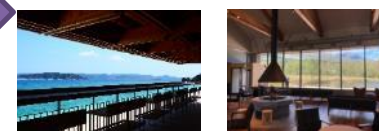
◎ サステナビリティ
への共感



◎ **自然と人々の物語**
を知るアクティビティ



◎ 感動体験を支える
施設とサービス



ブランディング活動 (ブランドプロミスを実現し続けるため、環境省が地域・関係者と一緒に取り組むこと)

- ① **自然・生活・文化・歴史を把握し、物語（ストーリー）を明らかにし、保護と利用の方針を定め、行動計画を作成します。**
- ② レンジャーが地域のコーディネーターとして、地域の多様な主体と一体となって公園管理や魅力の発信に取り組みます。

③ 自然の風景や野生生物、生態系を保護・再生します。

※二次的自然の維持管理も含む

④ 利用のルール、限定体験、利用者負担等に取り組み、公正な利用とその対価が保護に再投資される仕組みをつくります。

⑤ 脱炭素化や地産地消などに取り組み、持続可能な地域づくりに貢献します。

⑥ 物語(ストーリー)に沿った魅力的な自然体験コンテンツと体験コースをつくります。

※物語（ストーリー）とは、自然・暮らし・文化など地域の資源をつなぎ、その風景地の成り立ちや価値を伝えるもの

⑦ 集団施設地区・温泉街等の利用拠点の魅力向上を図ります。

⑧ 魅力的な利用施設の整備・管理を進めます。

⑨ 統一したメッセージ、デザインを活用し、国立公園に関する情報を広く発信し、理解拡大に努めます



インタープリテーション全体計画

背景

ブランディング活動

- ・ 来訪者に「忘れられない唯一無二の感動や体験」を提供
- ・ その地域ならではの価値とそれを伝える物語(ストーリー)を明らかにする ▶ **物語(ストーリー)を重視**
- ・ それを効果的に来訪者に伝えるコミュニケーションが重要 ▶ **ツールとしてインタープリテーション全体計画が有効**

物語(ストーリー)

自然・暮らし・文化など地域の資源をつなぎ、その風景の成り立ちや価値を伝えるもの

▼
インタープリテーション

物語(ストーリー)を来訪者と共有し、来訪者と国立公園との間に特別なつながりを形づくるコミュニケーション

▼
インタープリテーション
全体計画

物語(ストーリー)を、いつ・どこで・誰が・誰に・どのように・伝えるべきか
(5W1H)、地域全体のインタープリテーションを整理したもの

期待や効果

- ・ 地域のみんなが地域ならではの価値を伝えるようになる
- ・ 地域ならではの価値を伝える体験プログラムが造成される
- ・ サインやWebサイト等において統一したメッセージで情報発信がされる
- ・ ビジターセンターが物語(ストーリー)を伝える核として機能する
- ・ 守るべき場所やルールが明確になり、なぜ守るのか理解されやすくなる など



インタープリテーション全体計画の課題

課題

作成後の活用と見直し

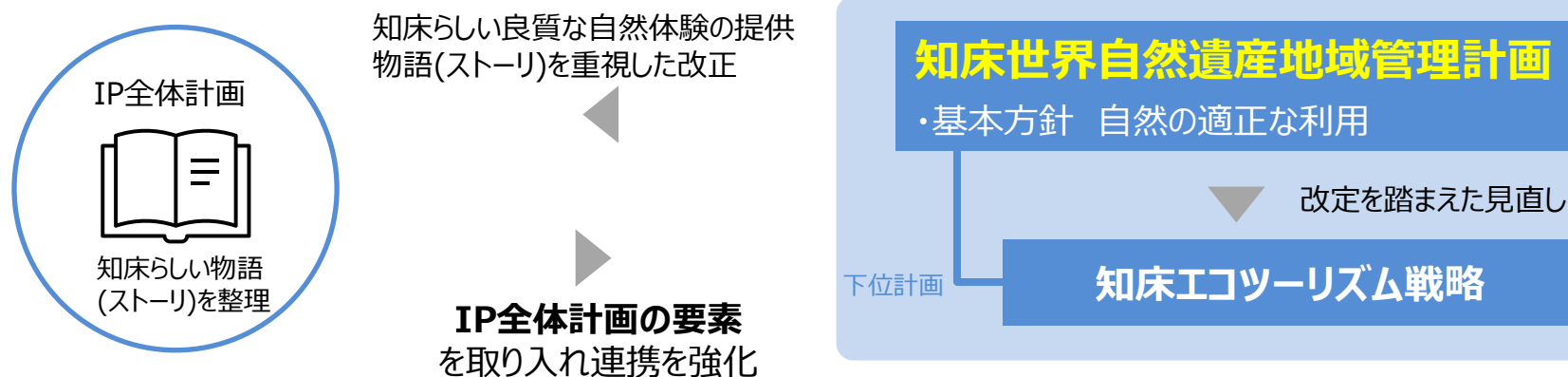
- ・地域関係者の理解と参画
- ・利活用の促進
- ・計画の見直し作業（メンテナンス）

各種計画との関係性の整理

- ・既存計画（法定計画や施策の計画）との関係性の整理
- ・公園計画や管理運営計画との連携強化

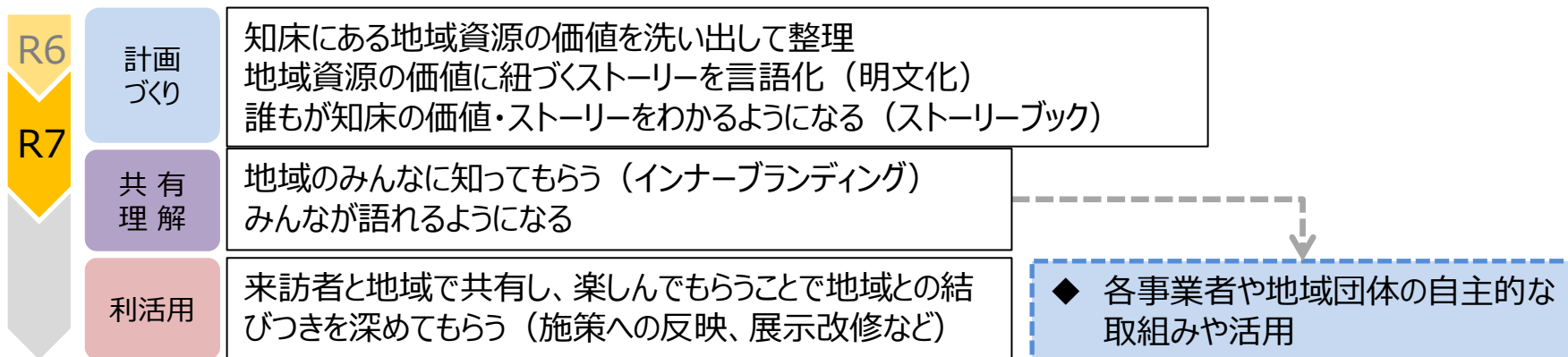
既存計画との関係性の例

▶ IP全体計画と遺産管理計画及び知床エコツーリズム戦略との関係性

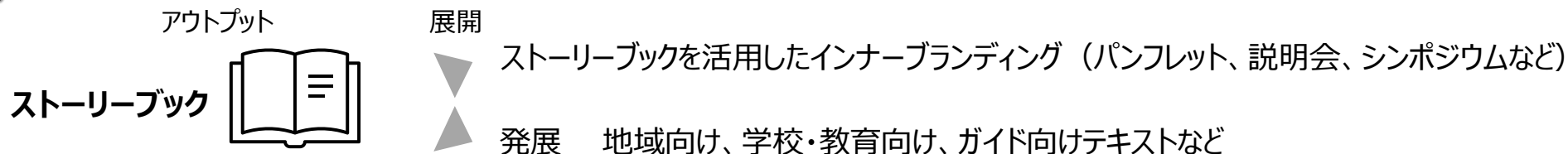


知床IP全体計画の今後の予定と利活用

今後の予定



利活用



	短期（～1年）	中期（～5年）	長期（～10年）
環境省	ストーリーブック(IP全体計画)作成 知床エコツーリズム戦略への反映 地域へのインナーブランディング戦略作成・実施 環境省補助金を活用した各種事業の実施	ストーリーブック改訂・3～5年毎 公園計画・管理運営計画への反映 世界自然遺産地域の各種計画への反映 羅臼VC映像作成 地域へのインナーブランディング実施 地域の取り組みへの支援	インタープリター育成支援 遺産センター展示改修
各事業者	観光庁補助金※を活用した各種事業の実施	事業者からIP全体計画に沿った事業の取り組みが始まる ・ 地域の人材育成のテキスト ・ 新たな観光コンテンツ造成 ・ 地域の魅力の情報発信力の強化 など	事業者にも価値の共有化がはかられ協力や連携が進む

※知床IPは観光庁事業と一緒に取り組んでおり、その成果（知床の価値やストーリー）に沿った事業であれば、観光庁補助金事業に採択するときの判断基準になる。